

# そ やくよ 楚、厄除けの風習

だいさんわ  
第参話

ふうしゅう

- 「端午の節供」のもう一つ  
の由来は、大昔の中国の  
人物が関係していた!?
- 「端午の節供」に、ちまきを  
食べるのも、ここから  
始まった!?
- やっぱりショウブとヨモギ  
は、悪い気を払うための  
大切なものだった。

「端午の節供」の1つ目の由来は、田植えの時期に、早乙女と呼ばれる女性たちが屋根に菖蒲をさした小屋にこもって身を清める行事でした。

それでは、もうひとつの由来の話しましょう。

それは今から、約2300年前の中国まで、さかのぼります。そのころの中国は、「楚」という国がありました。



2300年前ですって!  
しかも、日本じゃなくて、  
中国なのね!

「端午の節供」のもう  
ひとつの始まりの物語  
だね。わくわくするよ!



楚の国王のそばに仕えていた人たちの中に、政治家でもあり、詩人でもあった屈原(くつげん)という人物がいました。屈原は正義感が強く、人を思いやる気持ちがあったので、人びとからとても人気がありました。ほかの国とのかかわりについて国内がもめたときも、屈原は国王に意見を言うなど、けん命に国のために働きました。

ところが、屈原のことをよく思わない者たちの悪だくみにより、屈原の意見は受け入れられなかったばかりか、国のはずれへと追いやられてしまうのでした。

その後、楚は、ほかの国に攻め入れられ、楚の中心となる都市をうばわれてしまいました。その知らせを聞いて、すべてに絶望した屈原は、体が浮かないように石を抱いて、汨羅江(べきらこう)という大きな川に身を投げて亡くなってしまいました。5月のことでした。(参考)『史記』



かなしい物語ね…。  
でも、「端午の節供」と、どうかかわってくるのかしら？

あせらないで。  
まだお話につきが  
あるようだよ。



屈原のことを大事に思っていた楚の国民たちは、亡くなった屈原のたましいをなぐさめるためと、川にしずんだ屈原の遺体を魚が食べないようにするために、粽(ちまき)を川に投げこみました。

それ以来、5月には粽を作って食べる風習が広がり、それが奈良時代になって日本にも伝わり、やがて日本の「端午の節供」となった、と言われています。

今から1400年ほど前に中国で書かれた書物によると、

- ・菖蒲や蓬を門にさして厄除け(悪い気を払う)をする。
- ・菖蒲を細かくきざむか粉にして、お酒にまぜて飲み、健康をいのる。

などが書かれています。この風習が日本に伝わったのではないかとする説もあります。(参考)『荆楚歳時記(けいそさいじき)』

では、「端午の節供」に、鯉のぼりや兜をかざるのは、どうしてでしょうか？

次の第四話でまた、くわしく調べてみましょう！

だいよんわ  
第四話につづく…

(次回予告) 鯉とのぼりは、本来、別物！？兜と鎧は、身を守るため！？

第四話「鯉をかざり、兜をかざり」